

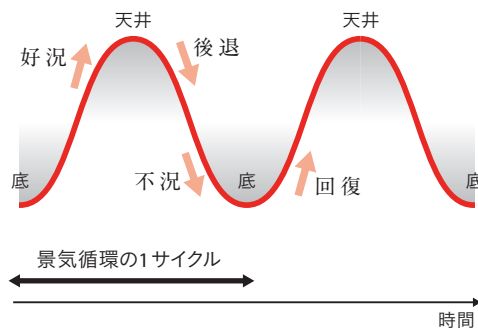
I-10

景気って何なの？

経済活動の勢いや水準を示す「景気」は、企業の生産活動や、家計の消費意欲と密接に結び付いており、人々の生活に大きな影響をもたらします。景気は、良い状態や悪い状態がずっと続くわけではなく、上昇と下降を繰り返します。この章では、景気の変動が発生するメカニズム、景気の状態を判断するための経済指標などについて学びます。

「景気」は経済活動の勢いや水準を表す言葉です。経済活動の主体には「家計」や「企業」「政府」「海外」などがあります。それぞれが経済活動——モノやサービスの生産や消費など——をする中でモノやサービスの需要と供給が変動し、経済活動が活発になったり不活発になったりします。この経済活動の勢いの変化を「景気の変動」と呼びます^{(i) (ii)}。

▶ 図I-10-1 景気循環の動き



▶ 図I-10-2 日本における戦後の主な好景気

名称	景気の底	景気の天井	景気の底	期間
神武景気	1954年11月	1957年 6月	1958年 6月	43カ月
岩戸景気	1958年 6月	1961年12月	1962年10月	52カ月
オリンピック景気	1962年10月	1964年10月	1965年10月	36カ月
いざなぎ景気	1965年10月	1970年 7月	1971年12月	74カ月
安定成長景気	1975年 3月	1977年 1月	1977年10月	31カ月
公共投資景気	1977年10月	1980年 2月	1983年 2月	64カ月
ハイテク景気	1983年 2月	1985年 6月	1986年11月	45カ月
平成景気	1986年11月	1991年 2月	1993年10月	83カ月
さざ波景気	1993年10月	1997年 5月	1999年 1月	63カ月
IT景気	1999年 1月	2000年11月	2002年 1月	36カ月

出所：日本経済新聞社「全図解ニュース解説」<http://www.nikkei4946.com/zenzukai/>

景気は、「好況」「後退」「不況」「回復」というフェーズを順に繰り返します。この動きを「景気の波」もしくは「景気循環」と呼びます。景気の上昇局面では、製品やサービスの販売が拡大。企業の業績は向上し、働く従業員の給与も上昇します。このため、さらに消費が増え、新たな生産につながります。つまり、企業や家計などの経済主体が好循環で活発に動きます^{(i) (ii)}。

繰り返す景気局面^{(i) (ii)}

一方で、景気の下降局面は、上昇時とは反対に、経済活動の活発さが失われます。モノやサービスの販売が停滞し、企業の生産と業績も低迷。従業員の給与も減り、さらに消費が落ち込むという悪循環に陥ります。

景気循環において、上昇局面の最高点を「景気天井」もしくは「景気の山」と呼びます。一方、景気が下降する局面の最低点を「景気の底」もしくは「景気の谷」と呼びます。景気の底を起点として、天井を経て次の底に至るまでの経過、循環を、1サイクルと呼びます。

戦後の日本には幾つかの好景気がありました。比較的、長期にわたつ